



TITLE:

村落共產體ノ發達

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

---

CITATION:

本庄, 榮治郎. 村落共產體ノ發達. 經濟論叢 1916, 3(4): 583-589

ISSUE DATE:

1916-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127092>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號四第

卷三第

故法學博士井上密君肖像并哀辭

## 論說

對露輸出代金決済方法

國防稅ノ當否(三、完)

代表紙幣ト獨立紙幣(二)

課稅ト獨占價格(二)

戰後ノ人口増加政策(二)

保險本質論(三、完)

## 雜錄

重子 在外正貨問題ヲ河津博士ニ答フ

公營造物ニ關スル美濃部織田松本三博士ノ所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(二)

支那ニ於テ人口過剩論ノ梗概

移民政策<sup>上ヨリ</sup>觀タル邦人同化問題

村落共產體ノ發達

らゲレ一『ミール』學說ノ研究(三、完)

過去ニ於テ和蘭ノ植民の活動

神惟孝<sup>ノ事ニ就キ</sup>鈴木券太郎氏ニ答フ

漬物机上觀

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 作田 莊一

文學士 高田 保馬

法學士 米田 庄太郎

法學士 小島 昌太郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 鈴木 券太郎

法學士 山本 美越乃

法學士 本庄 榮治郎

商學士 大塚 金之助

山本 美越乃

瀧本 誠一

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

## 村落共產體ノ發達

本庄榮治郎

余ハ茲ニ本誌第二卷第四號ニ於テれうゐんすきー氏ノ所有權起源論中ノ一節ヲ紹介シ、個人所有權ハ共有權ニ先立テシコトヲ述ヘタルガ、茲ニハ更ニ村落共產體ノ起源及ヒ發達ニツキ同書ニ説ケル所ヲ抄録セントス。\*

### 一

所有權ニツイテハ、個人私有權先ツ最初ニ起リタルモノナルガ、ソハ全ク同制度ガ當時各人ノ利益ト合致シタルガ爲メニ外ナラス。故ニ若シコノ制度ニシテ社會多數者ノ利害ト一致セザルニ至ラハ、衰滅ニ歸スルモノト考ヘサル可ラス。然ルニ人口ノ増加スルニ從ビ(一)富ノ破壊ヲ惹起シ(二)土地所有ノ不平等ヨリ生スル惡影響ヲ大ナラシメ、ココニ個人所有權ハ社會ノ多

雜錄 村落共產體 發達

數者ニ不適當ナルモノトナルニ至リシヲ以テ、之ニ應スルノ策トシテ富ノ破壊ヲ防キ(豫防)、且ツ土地ヲ均分スルノ必要ヲ生シ(均分)、遂ニ村落團體ノ干涉ニヨリテコノ方法ヲ行フニ至レリ。(一)豫防政策。思フニ既ニ各人ノ所有ニ屬セル土地ハソノ所有者自ラソノ所有權ヲ防護スルノ手段ニ出ツルヲ以テ、右ノ豫防的政策ハ未タ私有地トナリ居ラサル土地ニ對シテ、行ハルモノ也。先ツ草刈地ニ於テハ刈取人ノ増加ニ伴ヒ濫穫ノ弊ニ陥リ、收穫ノ減少ヲ來セシヲ以テ一定日以前ニ草ヲ刈取ルコトヲ禁セシガ、更ニ進ンテハ刈取人數ヲ限定シ、刈取機ノ使用ヲ禁シ、遂ニハ十分ナル草ヲ得サリノ者ニハ他人ニ屬スル草刈地ノ一部ヲ分配スルコト行ハレ、ココニ至リテ稍々均分的性質ヲ見ルニ至レリ(こさつくす)。又牧地ニ於テハ多數ノ家畜ヲ飼養スルコトニヨリテソノ富源ヲ枯渴ス。故ニ先ツ始メニハ賣買ノ爲メニスル家畜ノ牧養ヲ禁セシカ(印度)、其後飼養シ得ヘキ家畜數ヲ限定シタリ。レベリあ及び東露ニテハ各人同一數ヲ限リ

第三卷 (第四號五八三) 一二三

\* Jan St. Lewinski, The Origin of Property and the Formation of the Village Community, Chap. III. The Origin and Development of the Village Community P. 33-56.

若シ牧畜數少キ者ハ、ソノ權利ヲ他人ニ賣渡スコトヲ得（丁株、十一世紀英、國、八九世紀獨逸）均分の傾向次第ニ現ハルルニ至レリ。次ニシベリ（あ）ノ森林ニテハ、ソノ始メ頗ル樹木繁茂シ、農業ニ障害ヲ與フル程アリシガ、濫伐ノ結果、木材稀少ナルヤ、先ツ他郷人ノ森林使用ヲ排シ、幼樹ノ伐採ヲ禁シ、後ニハ各人ノ穫得シ得ル木材ノ量ヲ限ルニ至リ、或ハ自家使用ノ木材ニハ制限ナキモ賣買ノ爲メ之ヲ伐採スルニハ許可ヲ要シ、若クハ之ヲ禁シタルコトアリ。其後尙缺乏ヲ告クルニ及ヒ、自家使用ニモ制限ヲ附シタリキ。上述ノ諸政策ハソノ發達ノ後期ニ於テハ均分の性質ヲ伴ヒタリト雖、主トシテ富ノ破壊ヲ防止セントシテ行ハレタルモノ也。

(二)均分政策。コノ政策ハ所有地ニツイテ最モ明瞭ニ觀ルコトヲ得。蓋所有地ニ於テハ豫防的政策ヲ混淆スルコトナケレバ也。凡ソ自由占有制度ノ下ニ於テハ大ナル力倆ヲ有シ、多クノ家畜ヲ有シ、大ナル家族ヲ有スルモノハ、然ラサル者ニ十倍シ或ハ百倍スル大ナル土地ヲ有セ

リ。而シテ之レカ爲メ貧富ノ懸隔ハ次第ニ益甚シクナリ來レリ。土地豊富ナル場合ニハ斯ノ如キ不平等モ害ナシト雖、人口ノ増加スルニ從ヒソノ事情ハ一變セザルヲ得ス。耕作牧畜ニ適當ナル土地カ既ニ全ク占有セラレオル狀態ニ於テハ、貧者及ヒ新ニ家計ヲ立ブレタル青年ハ適當ナル土地ヲ得ル能ハザルカ、又ハ劣等ナル土地ニテ満足セザルヲ得サルコトナリ、在來ノ制度ハ萬人ノ利害ト一致セサルニ至レリ（東瀛シベリあ）（變組人ニさうく族）。而シテ土地ノ稀少性ガ感セラレ始メタル當初ニ於テハ、現所有者ハ益自己ノ所有權ヲ確保セントスルモノナルガ、人口益増加シ、從テ不満足者ノ増加スルニ從ヒ、兩者間ノ爭ハ益甚シクナリ、貧者ガソノ經濟狀態ヲ良好ナラシムル唯一ノ手段ハ、富者ノ土地ノ一部ヲ得ルニ在ルヲ以テ、彼等ハ、土地ハ神ノ與フル處ナルガ故ニ萬人共同ノ財産ニシテ平等ナラサル可ラズトノ理論ヲ基礎トシテ土地ノ分割ヲ要求シ、富者ハ之ニ對シテ勞力ト先占トヲ以テ爭ヒコノ爭ハ單ニ議論上ニ止マラスシテ遂ニハ暴力

ヲ以テ富者ノ土地ヲ奪フニ至リ(ニ至リ)、時代ヲ經テ人口益増加シ、從テ土地ヲ要求セル階級者ガ社會ノ多數ヲ占ムルニ及ヒ、土地分割ノ要求ハ頗ル勢力ヲ加フルニ至レリ。

而モ均分政策ノ實行セラルルニ至ル迄ハ長時期ヲ要シタルモノニシテ、其進化ノ階段ハ之ヲ分チテ三トナスコトヲ得即チ左ノ如シ。

一、未タ均分所有ノコト行ハレズ、單ニ自由專有權ヲ制限セル時代。

二、社會ハ一人ヨリ他人ヘ所有權ヲ移轉スル權利ヲ有スル時代。

三、土地定時分割時代。

第一期ニテハ勞力ノ加ヘラレタル土地ノ所有權ヲ制限ス。(牧地森林地及草地等ニシテ勞力ヲ加ヘス、單ニ農夫ノ近隣ニ存シタルカ爲メ、ソノ所有ニ歸セシモノハ、土地ノ稀少ノ感セララルニ及ヒ、之ヲ取上ケ、萬人ノ使用ニ公開シ何人モ之ヲ耕作スルヲ得タリ。)耕地ハ專有者カ耕作ヲ繼續セル間ハ、專有者ニヨリテ保タルト雖、休耕地トナリ一定ノ年限ヲ經過シタルトキハ、ソノ所有權ヲ失ヘリ。ソノ時期ハ區々ニシテ、例ヘハしベリあるニテハ二三十年ナルガ、時代ヲ追フテ人口増加ノ甚シキニ伴ヒ、ソノ年限短縮セラレ遂ニハ一旦土地カ休耕

地トナルトキハ、則チ所有權ヲ失フニ至レリ。右給るまん及ヒ丁抹村落ニモ同様ノ例アリ。

(勞力ヲ加ヘラレタル專有草地ニツイテハカカル制限ヲ見ス。蓋原始的農業ニ於テハ耕地ハ一定期間耕作サレタル後ハ休耕地トナルニ似シ、草地ハ絶エス使用セラレ、勞力ヲ中斷シ之ニヨリテ所有權ヲ中絶セシムル機會ナクセラレハ也。コレ等ノ草地ハ常ニ無制限個人所有ヨリ、直ニ第二期即チ一人カクテ休耕ヨリ他人ニ所有權ヲ移轉スル時代ニ移ル。)

期間ハ益短縮シ、遂ニ土地ハ間斷ナク使用セラレ、爲ニ地味ヲ消盡セシノミナラス、土地ヲ有セサル人々ガ、他人ノ耕作中絶ニヨリテ土地ヲ獲得スルノ機會ヲ失フコトナレリ。

更ニ進ンデ第二期ニ入ルニ及ンデ、社會ハ土地ヲ過多ニ所有セル者ヨリ、ソノ一部ヲ取リテ之ヲ過小所有者ニ附與スルノ手段ヲ採ルニ至レリ(コノ場合ニハ草地。而シテソノ方法トシテハ、初メハ(イ)相續人ナキ土地ヲ貧人間ニ分配シタルモ(きるぎす、ぶりあー)、土地ヲ要望スル人ノ數増加スルニ及ヒテハ、最早之レノミニテハ十分ナラス。故ニ進ンデ(ロ)租稅ヲ納メサル者ヨリソノ土地ヲ一部取リ上クルコトトナリタルガ、尙人口ノ増加ニ伴フ需要ニ應スル能ハス、(ハ)遂ニ租稅納付ノ如何ヲ標準トセスシテ、土地ヲ饒

多ニ有スルモノハ、ソノ一部ヲ提供スルノ義務アルモノトスルニ至レリ。而シテレバ、（即チ土地所有權者）ノ陳述ヲ聽取シタル後、之ニ決定ヲ下シ、土地ヲ與フルノ制ヲ採リシガ、コノ方法ハ屢行ハレ、之ニヨリテ先ツ最初ニ最顯著ナル土地所有ノ不平等ヲ除キ、其後、他ノモノニ及ヒ遂ニハ各人多少均分セル土地ヲ所有スルニ至リシトイフ。コノ制度ハ半遊牧人民間ノ草地ニモ行ハレタリ（さるぎ一ツ族）。然シ彼等ノ間ニテハ耕地ハ未タ十分ニ發達セス、且ツ耕地ニ適スル土地多カリシヲ以テ、耕地ニテハコノコト行ハレサリキ。而シテ屋敷地ニツイテモ分割ハ行ハレ、一定ノ標準以上ヲ所有スヘカラサルコトヲ規定シ、歐露ニテハ、コノ外、他人ヨリモ大ナル屋敷地ヲ有セル農民ハ、耕地ヲ減セラレ、若ハ特別ノ租稅ヲ負擔スルノ義務ヲ有スルモノトセラレタリキ。

第二期。以上ノ分配政策ニヨリ土地所有ノ不平

等ハ除カレタルガ、新ニ社會ノ一員トナリタル者ニ對シテハ、各人ヨリ同一量ノ土地ヲ取テ之ヲ與ヘタリ。數年毎ニ土地ヲ再ヒ分割スルノ政策ハ、コノ目的ヲ達シ且移動人口ノ間ニ均シク土地ヲ分配スル最簡單ナル方法ナリ。上述ノ草地及ヒ耕地ノ外、未專有ノ草地、森林地モ亦定時再分割セラレタリト雖、牧地及ヒ屋敷地ニハ定時再分割ハ行ハレザリキ。蓋牧地ニ對シテハ各家ノ家畜數ヲ制限スレハ、土地ヲ分割セズトモ、不平等ヲ除キ得ルノミナラス、若シ牧地ヲ各家ニ從ヒ分割スルトキハ、各家各多數ノ牧者ヲ出サザル可ラサルノ不便アレバ也。屋敷地ガ定時分割セラレザリシ所以ハ後ニ説明スベシ。

## 二

サテ分割ノ方法ハ土地ノ種類ニヨリテ異ルノミナラス、處ニヨリテモ異リ、齊一ナラス。今之ヲ詳述セズト雖、（一）村落共產體ニテハ耕地ハ大地區ニ分割サレズシテ細分サレタルコト。（二）村落共產體ハ周約的耕地ニ於ケル各人ノ利益ヲ成ルダケ害セザル方法ニテ土地ノ分割ヲナ

セシコト、ノ二點ハ注意ヲ要スル點ナリトス。

獨英露じやぐあ印度等ニオケル村落共產體ニ於テハ散居制ノコト行ハルガ、コノ制度ノ起因ハ土地ノ性質ニ非常ナル差等アルニ據レリ。蓋好收穫ヲ擧ケ得ヘキ土地ハ連續シテ存在セルモノニ非ス。又良地 往々ニシテ惡地ト犬牙交錯シ、一人ノ土地ヲ一ケ處ニ集中スルコトハ事實上ナシ難キ處也。村落團體ガ土地ヲ分割スルニ當リテモコノ點ヲ考慮ス。從テソノ分割ハ種々ノ小地域ニ於テナサレシモノ也。(こゝにさつぐ人ノ人ハ一ケ所ニ集中シテソノ土地ヲ得タルガ、コノ場合ニハ甲ハ良地ヲ得乙ハ劣地ヲ得ルノ結果ヲ生シ、遂ニ六ヶ年後ニ及ンテコノ制度ヲ廢シ、地質ニ從テ土地ヲ分割シ散居制ヲ採ルニ至レリ。)粗放農業ノ行ハル場合ニハ、土地ノ種類ハ三四種ヲ出テサルカ故ニ、コノ分配方法モ比較的簡單ナルモノナリシガ、施肥ノ行ハルルト共ニ、地質ノ外尙土地ノ距離ヲモ考ヘサル可ラサルコトナリ、土地ノ種類ヲ多カラシメ、三圃制ノ場合ニハ六種乃至十五種、二圃制ノ場合ニハ四種乃至十種ノ土地ノ種別ヲ生セリ。而シテカクノ如ク土地力細分セラレ、複雑トナリ、殊ニ三圃制四圃制ニ進ム

ニ及ンテハ、各人ヲシテ別々ニ耕作セシムル能ハス、耕作方法、時期等皆一定ノ制限ノ下ニ行ハシメ、所謂耕作強制 (Flurzwang) 行ハルヲ常トス。カクテ漸次發達シタル後、最後ニ村落共產體ニ達スル也。

土地ヲ分割スルニ當リテハ、土地ニ注カレタル勞力ヲ斟酌シ、且土地ヲ十分ニ耕作セシメ、各人ヲシテ其利益ヲ全カラシムルヨウ其期間ヲ定メサル可ラス。即施肥ソノ他ノ勞力ヲ要スル場合ニハ、其期間長キニ亘ルモノトス。耕地カ草地ヨリモ長期間同一人ノ手ニ委セラレタル如キ、ソノ一例也。(しべりあ歐露ノ士民英ノ國ノ村落共產制ノ如シ)。

### 三

上述ノ如ク共產體發達ノ過程ハ、草地、田野、牧地等ニツキ必スシモ同一ナラザルガ、ソノ理由ハ、(一)均分ノ必要ハ、此等ノ土地ニ於テ必スシモ同一ニ感ゼラルルニ非ルコト。(二)個人所有權廢止ニ伴フ困難ガ各場合ニ同一ナラサルコトノ二點ニ在リ。

既ニ述ヘタル如ク村落團體ノ干渉ハ土地ノ豊

富ナラサルニ及ンデ要求セラルル也。然ルニ草地、耕地、森林等ニツイテハ、處在ヲ異ニシ、量ヲ異ニシ、人ノ欲望ノ程度ヲ異ニスルカ故ニ、コノコトハ同時ニ感セラルルモノニ非ス。草地ノ分割ハ通常耕地ノソレヨリモ早ク行ハル。盖草地ノ缺乏ガ耕地ノ缺乏ヨリモ以前ニ感セラレシヲ以テ也。例ヘハ遊牧人民中ニハ農業ハ未タ重要ナラス、又農業ニ適スル土地ハ多ク存スルニ反シ、牧草ハ多量ニ要シ當時ノ草刈地ノミニテハ十分ナラサリシ也。(しべりあ露國農民ノ例アリ)。又しベリあニ於テ水邊ニ存セル草刈地ハ森林中ニ存スル草刈地ニ於ケルヨリモ、早ク均分制發達シタルハ、前者ハ、ヨリ豐饒ニシテ、ヨリ多ク欲求セラレ、從テ比較的ニ稀少ナリシヲ以テ也。又しベリあノ劣等農地ハ屢良地カ分割セラルルニモ係ハラズ、尙自由所有制存在シ、村落ノ近郊地ハ分割セラレシト雖、遠隔地ニテハ個人所有行ハレ、古げるまん時代ニモ土地ノ質ト距離トニヨリ同一ノ差異ノ存スルヲ見タリ。(すみいでんノ露等ニモ同様ノ例アリ。コノ距離遠キ土地ノ自由所有ハ長時期ヲ經テ漸次廢滅セリ)。以上諸種ノ

事情ハ分割カ各種ノ土地ヲ通シテ同一時ニ行ハルルモノニ非サルコト證スルモノナラズヤ。  
次ニ第二ノ理由ニツキテ考フルニ、所有者ガ多クノ勞力ヲ土地ニ注キタル場合ニ、コノ勞力ヲ斟酌スルコトハ、所有者ニモ、社會ニモ必要ノコト也。何等ノ差別ナク土地ヲ分割スルニ於テハ、社會ハ周約ノ耕作森林ノ開拓等ヲ妨クルニ至ルヘシ。盖何人モ數年後再ヒ土地ヲ分割セラルルコトアルヲ知ラバ、多年ノ後ニ始メテ報償セラルル如キ勞苦多キ勞力ヲ費スコトナカル可キ也。カクテ全社會ノ富源ハ開發セラレス萬人害ヲ蒙ル可シ。故ニ村落共產體ニ於ケル主要ナル經濟政策上ノ原則ハ、勞働ノ結果ヲ各人ノ權利トシテ出來得ルタケ尊重スルニ在リ。既ニ述ヘタルガ如ク、分割ノ期間ハ勞力ノ多ク注カレタルトキニハ一層長キニ亘ルモノニシテ、コノコトハ共產體ノ發達ニモ影響スル處少カラザル也。カノ草地カ耕地ヨリモ早ク分割セラレ、草地ノ中ニテモ施肥セラレタル草地ガ自然的草地ヨリモ長ク所有者ニ屬スルカ如キ、何レモ稀



少性ノ外ニ、勞力關係ニヨルモノ也。又屋敷地

(家屋、庭園、果樹園、納屋  
等ニ使用セラルル土地)

ガ定時再分割セラレザル

理由ハ、之ニ注カレタル勞力及ヒ維持ノ必要頗

ル大ニシテ、之ヲ世襲セシムルニ非レハ各人ハ

カカル勞力ヲ費ササル可キヲ以テ也。

(歐羅巴、  
北アフリカ、  
シベリヤ、  
等ニ於テ)

（ジャバ、  
スマタラ、  
英、  
等ニ於テ）

以上ハ村落共產體發達ノ概要也。而シテコノ

進化ハ、固ヨリ學理的前提ニ基ケル抽象的原則

ニヨリテ決スルモノニ非ス。日々ノ生活ノ必要

ヨリ生スルモノ也。舊制度ニ嫌焉タラサル者ノ

數、増加スルニ從ヒ、之ヲ排セントスル方法ガ

次第々々ニ強烈トナリ、遂ニ自由放任政策ヨリ

社會的干涉ノ發達スル制度ニ達セシモノ也。而

シテソノ進化ノ過程ハスヘテノ土地ニ同一ナル

ニハ非ス。均分ヲ必要トスル欲求ノ程度ニヨリ

又コノ政策遂行ノ難易ニヨリ、時ニ異ニシテ起

リ、又異レル速度ヲ以テ進ミシモノ也。